

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第48号 平成27年2月16日発行



米軍のエンジニアとして沖縄で過ごしたウィリアム・ジェンキンスは、1951年（昭和26）に「沖縄、微笑みの島」（Okinawa, Isle of Smiles: An Informal Photographic Study）を出版しました。当館所蔵のジェンキンス写真資料にある1952年3月頃的那覇・国際通りの遠景写真2枚を重ねてパノラマ風にしてみました。重なり部分には、当時の国際通りのランドマークである大宝館（映画館、のち沖縄三越）の看板が見えます。画面右端の大きな屋根の建物近辺は現在、那覇市文化てんぶす館になっています。[0000086412/1114,1134]

特集

平成26年度
常設展後期企画 「旅人たちが撮った沖縄」

■沖縄戦記録映像（「1 フィート運動の会」収集）のデジタル版を受贈

平成 26 年度常設展 後期企画
平成 27 年 2 月 3 日～7 月 12 日

旅人たちが 撮った沖縄

ジョージ・H・カー文書 宮古島 1962 年頃
The Cultural Assets Survey, and the Ryukyu Reference File of 1960-63 [GHK1F05001]



当館は、文書資料に加えて多くの写真資料も所蔵しています。米国立公文書館から収集した沖縄戦関係写真資料や、琉球政府ならびに琉球列島米国民政府の機関が撮影した広報写真は、館ホームページの画像検索データベース「写真が語る沖縄」で閲覧できることから、さまざまな形でご利用いただいています。

これらのように公文書の一部として収集したものだけでなく、縁あって沖縄を訪れた人々の私文書のなかにも、多彩な沖縄の「像（イメージ）」を確認することができます。

たとえば、いわゆる「廃藩置県」後に沖縄県官吏として来沖した人々、沖縄の独特の文化に表現のモチーフを求めてやってきた芸術家たち、沖縄の民俗や資源等の学術調査に携わった人々、軍務と離れた個人的な関心で沖縄での日常を撮った米軍関係者たち。彼らは、カメラ越しにどんなまなざしを沖縄に向けたのでしょうか。

常設展後期企画「旅人たちが撮った沖縄」では、琉球王国末期から昭和にかけてのこの視線のゆくえをたどります。

＊二は公文書館での閲覧用コード

ペリーたちが見た琉球

一八五三年（嘉永六）、ペリー提督率いるアメリカ海軍艦隊のうち三隻が那覇港に入港しました。この日本遠征隊は、日本近海で操業するアメリカの捕鯨業者の保護や、貿易船への燃料・食料供給を求めて派遣されたものです。一行は、首里城の強行訪問、奥地踏査などを遂行し、琉球王府と「琉米修好条約」を結びました。

この遠征隊に随行した画家 W・ハイネや E・ブラウンは、琉球や日本の風景や人々を描き、それらは後に版画となって広く流通しました。この日本遠征隊は、琉球の様子を西洋世界に紹介する役目も果たしました。

官吏たちの「沖縄県」

一八七九年（明治十二）、明治政府の命を受け、軍隊と警官を率いて三度目の来琉を果たした松田道之は、沖縄県の設置を通過しました。このいわゆる「琉球処分」以後、沖縄県庁では、中央政府から任命された県令（後に県知事）をはじめ、沖縄外の出身者が官吏のほとんどを占めました。

着任した県官吏らが在任中に撮影した、あるいは集めた写真には、後の沖縄戦で失われる前の沖縄の様子が記録されています。



今帰仁城址 1937 年（昭和 12）3 月 7 日
平野薫関連写真 [0000028673] 郷土史家として知られる島袋源一郎や島袋全発の姿もある。



卒寿者表彰記念写真 於：沖縄電灯株式会社発電所前 1911 年（明治 44）1 月 4 日
五味武資料 [0000065852] 90 歳に達した長寿者の養老式。



「LEW CHEW」(琉球) 1856 年（安政 3）刊
岸秋正資料 [T00012502B] ハイネらの描いた原画をもとにペリー提督遠征記の挿絵が刷られた。豊見城城跡より那覇港を望む場面。



南西諸島鉱物資源調査写真 38 黒島
1938 年(昭和 13) 小林純資料 [0000067303]



民族調査写真 24-03
多良間 豊年祭 1938 年(昭和 13)
河村只雄資料 [T00022427B]



本部村女子警防団 物見やぐら前にて
1940 年(昭和 20)
隈崎俊武関連写真資料 12 [0000028541]



First Post War Election 01 投票所への列 1949 年(昭和 24)
トール・ヤマナカコレクション [U00001504K]
那覇市長選挙の有権者。投票所の建物には弾痕が目立つ。



Politicians 02 瀬長亀次郎 1950 年頃
トール・ヤマナカコレクション [U00001486K]

■アメリカ人たちの「沖縄」

一九四五年(昭和二〇)の沖縄戦で上陸した米軍は、軍政を布いて占領行政を開始しました。軍政府は一九五〇年(昭和二十五)に琉球列島米国民政府(USCAR)と改称しましたが、その実権はアメリカ陸軍が掌握し、一九七二年(昭和四十七)の施政権返還まで沖縄を排他的に統治しました。

アメリカ本国から沖縄へ派遣された米軍人等は、プライベートでも多くの写真を撮り、沖縄滞在の記念として持ち帰りました。研究者などの民間人も沖縄を訪れました。

■調査する人々・観光する人々

近代日本の版図となった沖縄に、民俗学をはじめとする学術研究や、天然資源等の調査のために、日本本土からやってくる人々も増えていきました。

観光地・沖縄も定着し、沖縄の名所旧跡や風物を素材にした絵はがきも多く製作されました。日本でありながらもエキゾチックな異境として、旅人たちから届けられる沖縄の姿。これらの往来を通して、日本における沖縄イメージが形成されていったとも言えるでしょう。



A package of seven photographs taken in Okinawa during the mid-1960's 1960 年代中頃 嘉手納基地の西海岸付近
W・J・デイトリッヒ資料 [0000018485]



沖縄の風物写真 1-1 ペルリ百周年祭パレード 那覇市平和通り
1953 年(昭和 28) 5 月
ウィリアム・ジェンキンス資料 [0000086412]

平成二十六年十二月八日、「沖縄戦記録フィルム一フィート運動の会」(以下「一フィート運動の会」)が収集した沖縄戦の映像を琉球朝日放送がデジタル化し沖縄県公文書館に寄贈いただきました。

この映像資料は、「一フィート運動の会」が米国立公文書館から収集したフィルムをデジタル化したもので、約三〇時間分の映像がDVD三十四枚、ブルーレイ十八枚に納められています。

米国立公文書館所蔵の沖縄戦映像は、「一フィート運動の会」による収集・上映活動により広く知られるようになりました。

同会が収集したフィルムは、平成二十五年三月に沖縄県公文書館へ寄贈されましたが、一般利用にあたってはデジタル化する必要がありました。

これまでに、「フィルムを閲覧したい」とい



右から石底均報道制作局長、上里猛専務取締役

「1フィート運動の会」収集 沖縄戦記録映像の デジタル版受贈



う声が多く寄せられており、今回寄贈いただいたデジタル版資料によって、その大部分を公開することが可能になりました。

今後、資料への索引づけや、データベース化を行った上で、平成二十七年四月に公開する予定です。

また、米国立公文書館が所蔵する沖縄戦映像フィルムは約千本ありますが、今回の寄贈により、沖縄県公文書館では約六百本分の映像を所有することとなります。

これらの映像は閲覧室で自由に閲覧でき、また、ご自分のパソコンを持参すれば無料で複写出来ます。今年は沖縄戦終結七〇年の節目の年であり、この機会に幅広い世代の方々に見ていただきたいと思ひます。

新里勝彦さんは、琉球放送のカメラマンとして報道番組制作に長く携わってこられました。沖縄の戦後史を報道の現場から見つめ続けた新里さんに、「一フィート運動の会」が収集した映像資料とのお縁についてうかがいました。



私とアーカイブスⅡ 「1フィートフィルム」と新里勝彦さん

うに貴重で、番組を作るときにも欠かせないものでした。ですから、会社から正式にオファーをして、会が集めたフィルムからのデジタル化をさせていただくことにしました。

できるだけ経費を節約しようと、仕事が終わった後で自分ですべてデジタル化の作業をしました。そうしながら、撮影地はどこか、撮影日はいつか、映像をみてそういった情報をとって、内容のインデックスも作りました。

県民の浄財で県民のために、というのが会の理念です。収集したフィルムはいつか県民の財産として活用を図ってくれるしかるべき機関にと、会は考えていたんだろうと思います。また、確実に後世に残すために複数保存、分散保存しようと、放送局にも複製をさせてくれたんです。

そういう意味で、今回、放送局から県公文書館へのデジタル版寄贈が実現して、ひじょうに嬉しいです。元館長の宮城悦二郎先生は、会がアメリカで資料収集を始めたときからお世話になった方でしたし、これも縁ですね。

公文書講演会を開催しました

公文書は だれのもの？

公文書管理制度と歴史研究、民主主義

平成二十六年十一月二十二日（土）、講師に長野県短期大学助教・瀬畑源（せばたはじめ）さんを迎え、公文書講演会「公文書は誰のもの？公文書管理制度と歴史研究、民主主義」を当館講堂で開催しました。

瀬畑さんは、歴史学の立場から、日本での公文書管理の歴史的背景について関心をもたれ、近年は情報公開制度と公文書管理制度の意義についても研究をなさっています。

今回の講演では、施行直前の特定秘密保護法の問題点を公文書管理や情報公開の面から解説して



下さいました。

また、地方公共団体における公文書管理においても、「公文書管理条例」の制定によって、健全な民主主義の根幹を支える住民共有の知的資源としての公文書の利用が図られる。その為には、市民の側からの積極的な働きかけが重要である」と述べられました。

琉球政府文書の保存に関する歴史的経緯や、沖縄県文書の管理にも触れ、「歴史的に重要な公文書を保存することは、沖縄史への責務である」と結ばれました。

注目資料

河村只雄資料に残る 昭和十年代前半の沖縄の地誌

河

村只雄（一八九三年（明治二十六年）～一九四一年（昭和十六年））は山口県生まれの社会学者です。『家族の起源』や『南方文化の探究』、『続南方文化の探究―薩南、琉球の島々』等の著作で知られています。

河村が自宅で保管していた資



所蔵資料検索データベースで「河村只雄資料」と検索すると、一覧で目録がご覧になります。

料が、遺族のご厚意により一九九八年（平成十）三月に当館に寄贈されました。これらの資料は、河村が一九三六年（昭和十）から一九四〇年（昭和十五）まで、五回にわたって南西諸島や台湾の民族学的調査に入った時に撮影した８ミリフィルム、写真ネガフィルム、日記その他から成ります。昭和十年代前半の沖縄を知ることのできる資料群です。

河村が調査に際して収集したと思われる地誌や報告書等が閲覧できるようにしました。学校が実施した郷土調査の報告書からは、河村が勤務した国民精神文化研究所の教員研究科に在籍した沖縄県の教員たちが、地元に戻って河村の調査に協力するため作成した経緯がうかがえます。屋我地、伊良部、与那国など、いわゆるへき地における風俗習慣が記録されている一方、「標準語励行委員会規約」などの記述もあり、伝統文化と近代化のはざまで揺れる昭和十年代の沖縄社会の一端に触れることができます。

シマめぐり沖縄

第2回 南大東島

1900年（明治33）、八丈島の移民によって開拓され、沖縄の中でも特異な歴史を歩んだ大東諸島。「シマめぐり沖縄」第2回は、南大東島に関する資料をご紹介します。右の写真は、1965年7月のワトソン高等弁務官南大東島視察の折に撮影された1枚です。シュガートレイン前にて。
[0000112095 / 43-15-2]

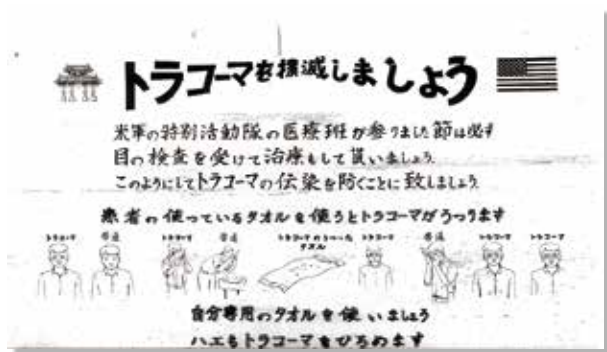


一九六一年（昭和三十六）一月十三日、日本政府運輸省気象庁長官と琉球気象台長の間で、南大東島における高層気象観測に関する覚書が琉球列島米国民政府の承認のもとに取り交わされました。日本気象庁への協力等が取り決められています。現在もこの観測は継続しており、天気予報や気候変動の監視に役立つ重要なデータをもたらしています。

また、現在はGPSゾンデを使用していますが、当初はレーウィンゾンデという方向探知システムを用いた無線追尾方式を使用していたことが記載されています。



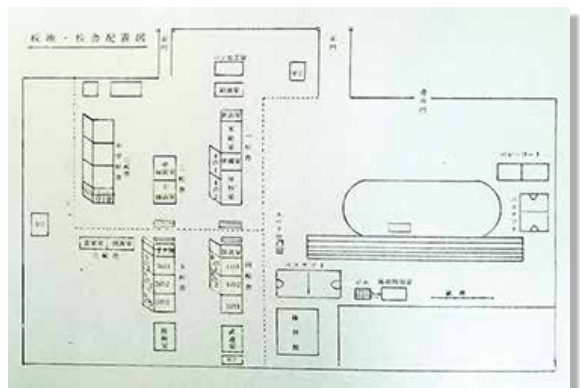
Memorandum of Minami Daito High Altitude Observation 南大東島における高層気象観測に関する覚書
1961年1月 公益事業局文書
[U81400373B]



U.S. Army, SAFAsia RYIS Civic Action Program After-Action Report (Project Daito II).
米国防軍アジア特別活動隊大東プロジェクトII実施報告書
1966年5月 厚生教育局文書 [U80800603B]

一九六〇年代、沖縄ではクラミジアを病原体とする結膜炎、トラコーマといった眼病が蔓延しました。米国民政府及び琉球政府は、WHO（世界保健機構）のトラコーマ撲滅作戦方式を取り入れ、一九六六年（昭和四十一年）から三カ年にわたって各地で検診を実施しました。

米国防軍アジア特別活動隊が、南北大東島においてトラコーマの状況を調査し、検診や治療、感染予防をおこなった詳細な記録が残っています。左の資料は、予防のために作成された住民向けのビラです。



学校施設台帳 1967年 南大東小中学校 154より
1967年～1970年 琉球政府文書 [R00162373B]

南大東小中学校は、一九〇八年（明治四十一年）に私設学校として創立されましたが、戦後、沖縄民政府の指示で「南大東初等学校」に改称しました。琉球政府文書の「学校施設台帳」には、中央教育委員会の設置基準から算出された必要教室数や、一九七〇年頃の学校施設調査表、昭和四十五年学校要覧等が一式含まれています。左の資料は、学校要覧に記載されている当時の校地・校舎配置図です。

公文書館にはこのほかにも南大東島に関する資料があり、閲覧室でご覧になれます。



A.
鞆等の袋類や、飲食物の持ち込みはできません。これらのものは、閲覧室入口の左奥にありますコイン式ロッカーに預けてから入室してください。

Q.
閲覧室へ鞆などの私物を持ち込んでいいですか？



資料の利用に関する疑問にお答えします！

A.
公文書等の多くは一点しかない原本資料のため、資料保全の観点から、閲覧や複写申請の際には、申請者が本人であるか確認する必要があります。利用証は、各種申請時の本人確認手続を簡素化するために発行しています。

Q.
なぜ利用証を作成しないといけないのですか？

A.
お持ちの携帯カメラ等で資料を撮影することは可能です。その際、料金は発生しませんが、複写申請書の提出が必要です。

Q.
携帯で資料の写真を撮ってもいいですか？

A.
資料調査に必要なノート類、カメラ、パソコン等は持ち込みが可能です。カメラ等の機器をお持ちの方は、入室時に閲覧カウンター職員へお声かけください。

Q.
閲覧室でパソコンやカメラは利用できますか？

児童生徒の公文書館体験



平田大一理事長と名刺交換



資料の確認作業



電話応対

現在、教育現場では、キャリア教育の観点から、就学段階に応じた体験学習を実施しています。

平成二十六年年度、当館は小学生から高校生まで、七校の体験活動を受け入れ、働く事の大切さや、なぜ公文書を保存する必要があるのかということを知ってもらうために、様々な取り組みをしました。

ほとんどの実習生は、公文書館を訪れたのは初めてとのこと。職場体験や就業体験では、公文書館の役割や業務に関するオリエンテーションの後に、実際の業務を体験してもらいました。

また、十二月には高校二年生のみならず二二〇名が、郷土の歴史を学ぶ課外活動の一環で当館を訪れました。当館所蔵の映像資料を視聴した後、公文書専門員が、公文書館の業務や役割を説明し、所蔵資料をもとに沖縄県のあゆみを示しました。参加した生徒さんからは「公文書館は私たちにとって意外に身近なものであることがわかった。次回は閲覧室も利用してみたい」という声をいただきました。

公文書館との出会いが、子どもたちにとって、地域の歴史や公文書管理に興味を持つきっかけとなれば幸いです。

来館者

■平成二十六年十一月二〇日 中国第一歴史档案館より

沖縄県教育委員会との歴代宝案編集にかかる交流事業による招聘で来県中の、中国第一歴史档案館の王小紅さん、黎三羊さんが当館を見学されました。書庫の環境管理や、資料のデジタル化における技術的な課題についても、熱心な関心をお寄せでした。



業務報告

■軍雇用員カードの撮影前処理作業

当館は米国の統治下において、在沖米軍施設で働いた沖縄住民の個人別の労務記録である軍雇用員カードを約二十万枚所蔵しています。

現在「琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業」の一環として、軍雇用員カードのデジタル化を進めています。撮影をスムーズに行うために、カードに付着する錆び金具の除去、綴り直し、ドライクリーニング、落剥した写真の戻しを丁寧に行います。デジタルデータ化により、いっそうの活用が期待されます。



利用案内

■閲覧室の開室時間

午前九時から午後五時。閲覧申請は午後四時三〇分まで。

■休館日

毎週月曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、十二月二十九日から翌年の一月三日までの年末年始、六月二十三日（慰霊の日）。ホームページの開館カレンダーをご利用ください。

■閲覧室内にある参考資料室の資料は、手続きなしで自由に閲覧できます。写真アルバム（米国で収集した沖縄戦中戦後の写真、琉球政府関係写真等）、新聞、地図資料、行政刊行物等がご利用になれます。

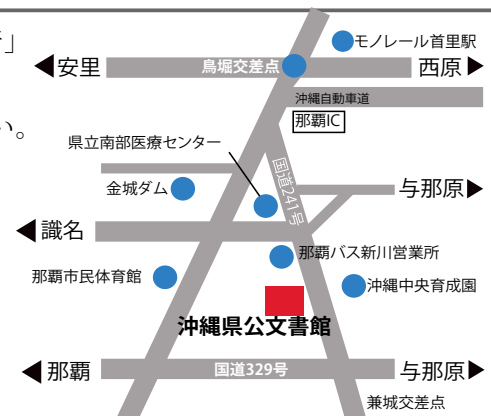
■書庫内の資料を閲覧するには、利用証の交付を受けてください。現住所がわかる身分証明書（運転免許証、学生証等）をご用意ください。

■閲覧室内の資料検索用パソコンで検索し、閲覧する資料を決めます。ご不明な点はカウンターで職員にご相談ください。

■資料の複写を希望される場合は、複写申請書を提出し、複写料金をお支払いください。参考資料室の資料は、申請者ご自分で複写できます。書庫内資料の複写は、職員が専用のコピー機を使用し行います。

交通案内

- ・那覇バス 系統番号 1、2、3、4、5、14、15、16「新川営業所」
 - ・東陽バス 系統番号 91「新川」いずれも下車徒歩 1 分
- * 駐車スペースが限られていますので、公共交通機関をご利用ください。



沖縄県公文書館だより ARCHIVES アーカイブズ第 48 号

発行日：平成 27 年 2 月 16 日

編集発行：沖縄県公文書館指定管理者（公財）沖縄県文化振興会 公文書管理課

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 148-3

電話：098-888-3875 FAX：098-888-3879

URL：<http://www.archives.pref.okinawa.jp>